

# 第9回中部地域半導体人材育成等連絡協議会

令和8年3月3日

経済産業省 中部経済産業局

(中部地域半導体人材育成等連絡協議会 事務局)

# アジェンダ

**1.令和7年度の実績**

**2.令和8年度の実施内容（案）**

**3.中部地域半導体人材育成等連絡協議会の今後の運営方針**

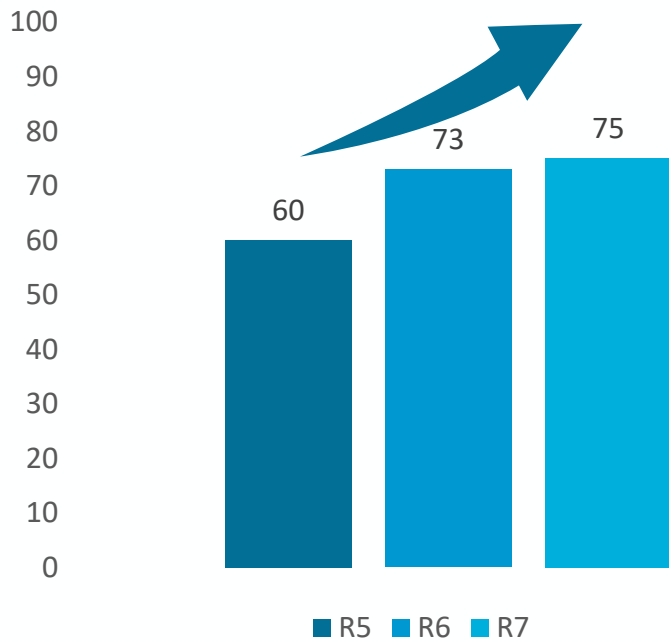
**4.その他**

# 1. 令和7年度の取組実績

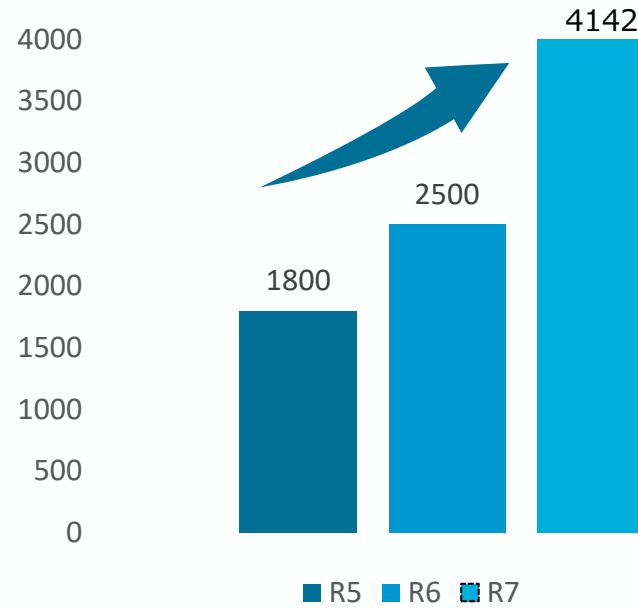
# マッチングによる取組の実施結果について（令和7年度）

- 各機関における連携先・取組に係る意向を集約し、機関間での調整を経た結果、昨年度年度に実施されたマッチングによる取組件数は**75件**(※)。組成された取組に参加した学生の総数は、**延べ約4,100人**。
- 協議会参加の全機関は、少なくとも1つ以上の取組に関与いただいております、地域一体となった人材育成を実施。**

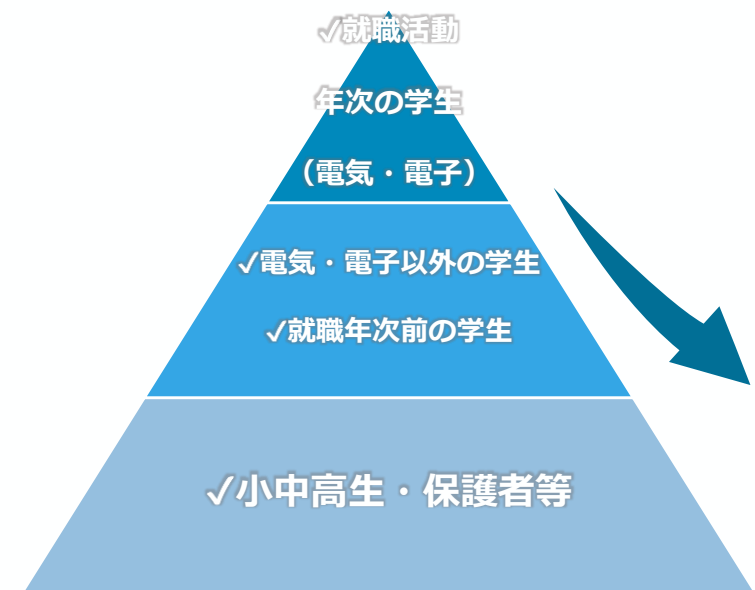
## マッチングによる取組実績推移



## 取組に参加した学生数推移



## ターゲット層の拡大



### 【※件数のカウントに係る備考】

- インターンシップは、人数や実施時期、受入拠点等の設定によらず、教育機関からの送り出し先となった企業との組み合わせを1件としてカウント。
- 1つの取組に複数の機関が参加している場合は、1件としてカウント。（例：A大学の業界説明会にB社及びC社が参加。）
- 連絡協議会設置前（2023年3月以前）の取組については含んでいない。 / ・教育機関同士の取組も一部含んでいる。
- 協議会員同士の取組に限定。

### 【※参加者数のカウントに係る備考】

- 令和7年度中（～2026年3月末）までに実施予定含む、参加者数が特定可能な取組を対象としてカウント。
- 同一の学生等を対象とする連続講義の一環として実施された取組については、重複でのカウントは行っていない。

# 取組における工夫やその効果、課題など①

○…企業 / ●…教育機関

## 工場見学会の実施

- （工夫）UPWARDS Summer Intensiveプログラムの一環として開催することで、米国学生に東海地区の産業紹介を行う機会を得た。また日本人学生を帯同させることで、東海地区学生への啓発も図ることができた。
- （工夫）可能な限り関係者(卒業生等)との対話会を設定。
- （工夫）Summer Internshipのプログラムにおいて、キオクシア社にご協力いただき、キオクシア四日市工場第7工場の見学会を実施。

## インターンシップの実施

- （工夫）夏季インターンを再開し、5日間で35名を受入。面接選考に部門の社員も参加し、実習テーマ選定に繋げた。  
⇒（成果）35名中、34名が採用選考に応募。
- （工夫）25年度からインテグレーションコースを新設。
- （工夫）インターンシップの報告会を学内の他学年も聴講可能としている。  
⇒（成果）参加者が報告を行うことで、その会社・事業内容などが下級生へ認知され、翌年のインターンシップに繋がる効果がある。

## 特別講義の実施

- （工夫）技術的な内容のみならず、自動車産業を取り巻くグローバルな環境変化やカーボンニュートラルへの対応など、学生の皆さんの視野を広げるような内容を織り込んで講義を実施。紹介内容が幅広いため、「1つだけでも、「おもしろそう」と思えるポイントを見つけてください」と発信し敷居を下げている
- （工夫）特別講義の際に、講義内容に関連する製品サンプルを持ち込み、聴講者の皆さんに見てもらいました。
- （工夫）学科横断の半導体科目（本科5年対象）を新規に立ち上げて実施した。みえ半導体ネットワークのご協力を得て、企業の方に講義いただき、学生には好評であった。次年度は対象学年を3年生に引き下げて実施予定とする。半導体産業への興味を引き出すような授業を目指す。
- （工夫）現在、特別講義の受講学生を全学科に広げることを検討している。

# 取組における工夫やその効果、課題など②

○…企業 / ●…教育機関

## 業界説明会の実施

- （工夫）すでに出来上がっている仕組みの企業説明会に参加いただいている。なお、昨今の就職活動の早期選考化に合わせて、例年は12月上旬に開催していた説明会の実施日を10月上旬開催に前倒した。
- （工夫）高専で開催している11月の合同業界説明会、および3月の学内企業説明会において、半導体企業様の枠を設けて、ご参加いただくことができた。企業枠には限りがあるため、幅広くご参加いただけるような働きかけを進めていきたい。
- （工夫）通常の業界説明会では、技術系の採用担当者とOB社員が説明員として対応していますが、金沢工業大学で開催されるイベントでは、フェローを派遣メンバーに加えることで、より専門性の高い技術的な説明を可能にした。  
⇒（成果）学生に対して技術の深みや魅力をより具体的に伝えることができた。

## マッチングの進め方に関すること、およびその他の意見

- 本協議会に加盟している大学、企業であれば、必要に応じつながることが出来る様になったので、今後も各団体の主体性に任せ、組成していければ良い。
- 現時点で、課題と認識していることはございません。これまでの協業させていただいた団体様と引き続き取組を進めて参ります。
- 事務局によるマッチングは不要ですが、連絡先の取りまとめは事務局でお願いしたいです。  
⇒R8年度事業よりマッチング作業は無しとし、各機関担当窓口の連絡先共有のみを行うこととしたい。
- 以前も記載しましたが、共同研究や人材交流など産学連携も含めた活動に発展していくことを期待します。
- 企業様とのつながりはできてきているので、教育および研究のそれぞれの分野において、より効果的な取り組みとなるような質の向上を目指していきたい。
- (課題)双方の目的、メリットが異なることも多く、協業の障壁となる。  
(改善アイデア) 複数の取組を組合せ、総合的に双方が利する形としたい。

# **1-1.令和7年度の取組実績**      **マッチング以外の取組**

# 教職員向け工場見学会

- 教職員の半導体に対する理解を深め、半導体関連の知見が進路指導や授業でも活用されることを目的に、**中部初の教職員向け半導体工場見学会を開催。**
- 令和8年度は北陸地域での継続に加え、東海地域での実施を検討（みえ半導体ネットワークとの連携も視野）。

## 開催概要

開催日時	令和8年2月20日（金）13:30-16:00	
対象者	大学・専門学校等の教職員（参加者：17人）	
開催場所	加賀東芝エレクトロニクス株式会社	
プログラム	国の半導体戦略 （経済産業省 中部経済産業局）	20分
	会社概要説明 （加賀東芝エレクトロニクス）	15分
	前工程（ウィンドウツアー）	20分
	後工程（ウィンドウツアー＋VR体験）	20分
	座談会	30分
	質疑応答	10分
備考	金沢駅／富山駅⇄会場の無料往復バスを運行	

参加費無料

（教職員向け）半導体企業工場見学会  
未来の産業を支える半導体の製造現場を体感しませんか

2026 **2.20** 金  
13:30～16:00

会場：加賀東芝エレクトロニクス株式会社  
（石川県能登郡内町1-1）  
お申込はこちら

定員：20名  
参加費：無料  
対象：大学、高等専門学校等の教職員  
申込期限：令和8年1月30日（金）

※金沢駅・富山駅⇄会場の無料往復バスを手配予定  
※各駅までの交通費は参加者様のご負担にてお願いいたします。

IoT時代を支える半導体産業は世界的な需要拡大により急成長を続けていますが、複雑な産業構造や製品を理解する機会は限られています。  
本工場見学会では、経済産業省による国の政策動向の説明に加えて、企業の最新工場見学を行います。教員の資格に半導体の全体像と魅力を体感いただき、授業や学生のキャリア支援に活かせる知見を獲得していただくことを目指します。  
半導体は、電気電子だけでなく化学・物理・材料・情報など多様な学問分野に支えられており、電気電子系以外の教員にとっても、自身の分野が産業にどのように活かされているかを学べる貴重な機会となります。

- 1 経済産業省による国の施策説明
  - 半導体産業支援施策の説明
  - 中部地域半導体人材育成等連絡協議会における取組の説明
- 2 加賀東芝エレクトロニクス(株)のご紹介
  - 会社概要
  - 半導体企業が求める人材
  - 工場見学
- 3 社員×教職員座談会
  - 入社後に気づいた、学生時代に学んでおくべきこと
  - 学生の経験が活かされた体験
 上記をテーマに座談会を実施

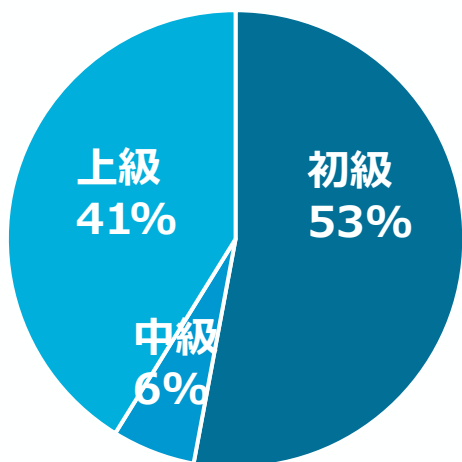
※前日のプログラムは変更となる場合がございます。



# 教職員向け工場見学会 参加者の声

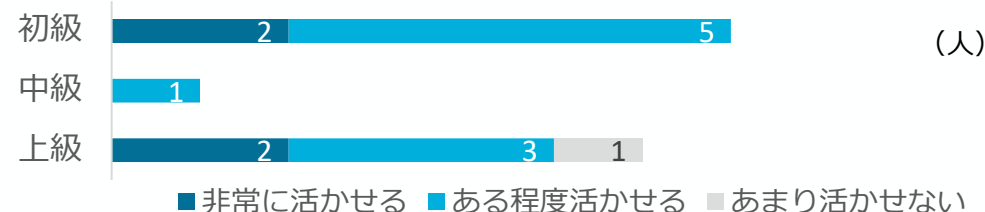
- アンケートの結果、参加者のレベルに関係なく、好評な意見が多く、次回開催に期待する声も多数。

## 参加者の属性等



<b>初級（基礎用語から学びたい） 9名</b>
化学／工業熱力学／物性物理学／情報数理など
<b>中級（製造プロセスの概要を理解） 1名</b>
工業熱力学、機械力学
<b>上級（研究・教育で半導体を扱う） 7名</b>
集積回路工学／電気回路／材料設計学など

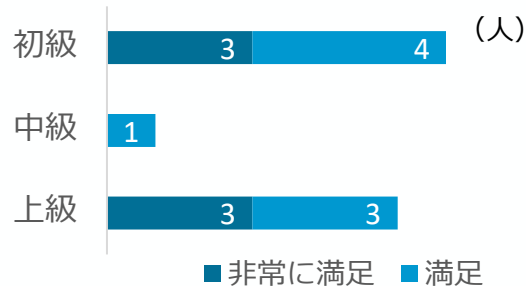
## 工場見学会で学んだ内容を学生の教育・進路指導に活かしますか？



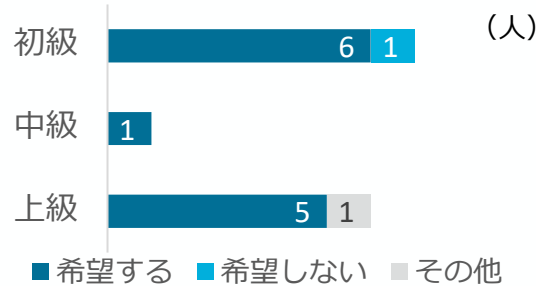
### 上記回答理由（一部加筆修正）

- 内部の事情などを率直にお答えいただけ、進路指導に活かせる。
- 県や市町村が盛んに誘致活動している理由がわかった。学生の就活指導の注意点やポイントがわかった。
- 企業のニーズを知ることができた。**それを学生の教育・進路指導に活かすことができる。以前はそもそも、何を求められているかが不明でした。
- 技能職の具体的な働き方を拝見し、現場の魅力を体感できた。**この知見を生徒のキャリア支援や進路指導に役立てると思う。
- 工場見学を通じて、**実際に現場で働く方の様子や環境**について体感することができ、学生への情報提供がしやすくなった。福利厚生も充実しているようであり、授業等でも紹介していきたい。
- 修士を卒業した学生が**企業でどのような仕事をしているかを知ることができた。**博士人材の企業側のニーズも知ることができた。
- 職場の雰囲気を知ることができた。最新工場の見学やVRで後工程のプロセスを体感できたりと、半導体工場の雰囲気を学生に伝えるために必要な体験をさせていただいた。
- 教員である私が実際に工場の雰囲気を知ることができたため、具体的にかつ自信を持って学生に情報を提供することができる**と考えるため。

## 当日の満足度



## 次回工場見学会の開催



# 教職員向け工場見学会 参加者の声

- 自由記述では、次年度の開催に期待する声の一方、プログラムや運営面における課題も挙げられた。

## 工場見学会や半導体人材育成の取組全般に対する意見（一部加筆修正）

- 半導体工場で働くことを他業界と比較し、利点（給与面や福利厚生など）や、どんなキャリアプランがあるのか知りたいです。
- 人事担当者、若手・中堅社員との懇談をもう少ししたかった。フリーな交流の時間があった方がよかった。
- 当日もお伝えしましたが、学生の志向とのアンマッチを強く感じます。現場の学生の声からは、半導体業界に対する強い関心を聞くのですが、なかなかアプローチさせてくれない（NDAが厳しいためと思います）、「国家のため重要」という「上から目線」（あえてそう書きます）からの「興味を持ってもらう」という論調は不評です。そのあたりのアンマッチをよくご考慮いただきたいと思います。
- 今回は、電気・電子の学生がメインターゲットの企業だったが、他の分野、例えば、物理、化学、などの専門が活かせるような企業、工場を見学したい。半導体企業には、そのような他の分野も専門が活かせるはずだから。**
- 所属は機械工学ですが、学生の一部は半導体産業や装置メーカーに興味を持っています。企業の方々との交流を通して、少しでも貢献できればと思います。**
- 今回は自分自身の興味で参加させていただいたが、一般の教員にとっては、長距離の移動と予算獲得はやはり大変と感じた。三重県の教職員であれば県内あるいは東海三県の工場見学が現実的と考えられるので、さまざまな企業様を見学できる機会があるとよいと考える。**
- せっかく座談会でグループ分けしているなら、それに合った人（高卒・大卒・修士卒など）を配置して欲しかった。

# オンライン勉強会

- 今後、進路選択前の学生、電気電子学科以外の他学部の学生や小中高生へのアプローチが必要と考え、アプローチ方法・ノウハウの習得のための他地域の先進事例を学ぶ勉強会を全3回実施した。

## 勉強会実施の背景・目的

- 電気・電子学科における3年生以降の学生には半導体への興味関心の向上に向けてアプローチできている一方で、①電気電子学科の進路選択前の学生や、②電気電子学科以外の他学部の学生、③小中高生には十分にアプローチできていない。
- そのため、他地域の先進事例より、こうしたターゲットへのアプローチ方法・ノウハウを習得するため、協議会参画機関を対象とした勉強会を開催することになった。

開催日	勉強会名称	連携先地域	講師	主な参加対象
2025年8月25日	専門学部以外の学生へのアプローチ方法	東北	山形大学	教育機関
2025年8月27日	半導体が切り拓く未来～産学ミートアップ	九州	九州半導体・デジタルイノベーション協議会	教育機関・企業
2025年11月12日	「若年層へのアプローチ方法」 中国地域×中部地域	中国	タワーパートナーズセミコンダクター マイクロンメモリジャパン 広島大学	教育機関・企業

# オンライン勉強会の概要

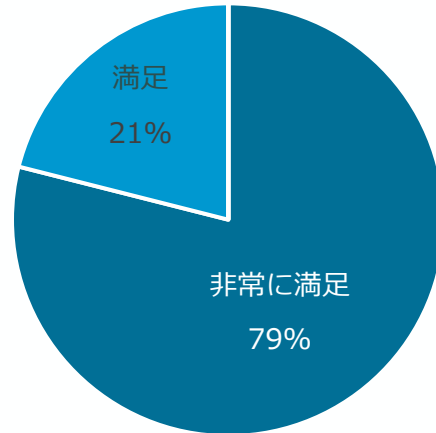
## 専門学部以外の学生へのアプローチ方法

開催日時	• 2025年8月25日13:00-14:30
講師	• 山形大学 大学院理工学研究科（工学系）電気電子工学分野 成田 克教授
開催形式	• オンライン開催
背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>• 山形大学では一般教養科目として「山形・東北と半導体」を開講しており、電気電子に限らず、多くの学生が受講。</li><li>• 受講した学生が、その後T-Seeds(東北半導体産業コンソーシアム)の取組に積極参加。また、本取組が東北地域内の他大学と高専で横展開されている。</li><li>• 中部地域において今後専門学部の以外の他学部の学生へのアプローチ方法の参照になることから、講演を依頼。</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>• 電気電子分野以外の学生にも受講を促すことができた背景や工夫</li><li>• 受講を通じて学生の興味関心を高め、T-Seedsが主催する半導体関連イベントへの参加につながった要因</li><li>• 教育機関と企業の連携体制や、プログラム設計上の工夫、企業が登壇する際の留意事項 など</li></ul>
場所	• オンライン開催
参加者	• 25名

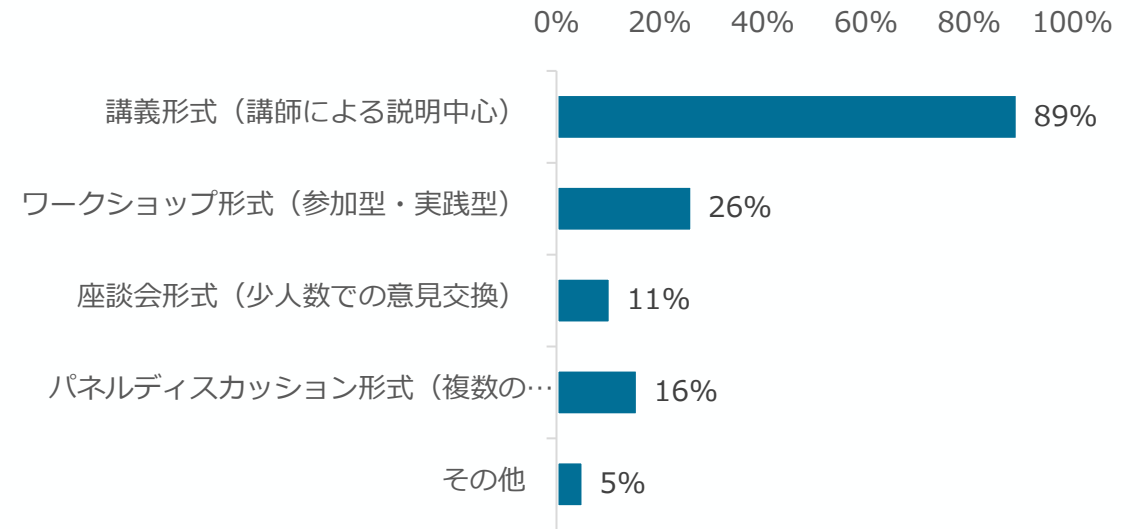
# 参考：令和7年度オンライン勉強会アンケート結果

- 「専門学部以外の学生へのアプローチ方法」では非常に満足度の高い結果となった。

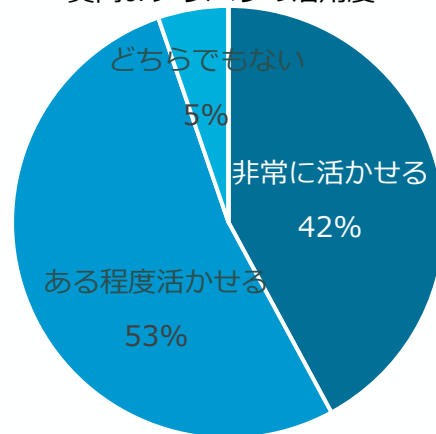
質問1. 本勉強会の満足度



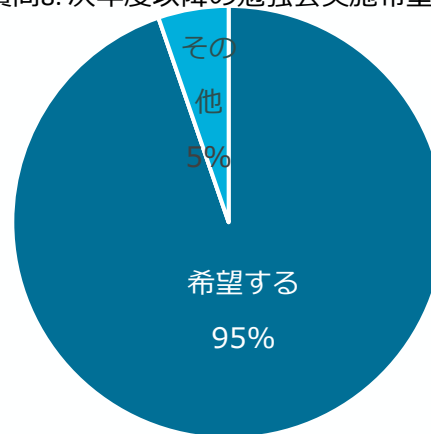
質問5. 実施形式の希望（複数回答式）



質問6. ノウハウの活用度



質問8. 次年度以降の勉強会実施希望



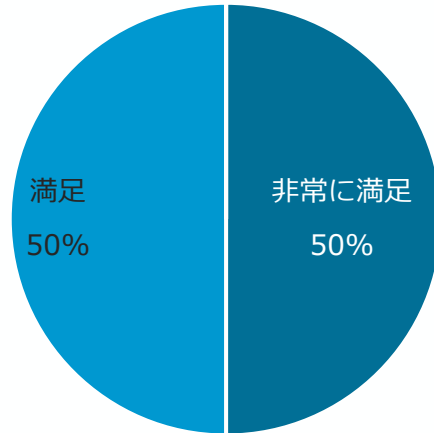
# オンライン勉強会の概要 半導体が切り拓く未来～産学ミートアップ

開催日時	• 2025年8月27日14:00-15:30
講師	• 九州半導体・デジタルイノベーション協議会（SIIQ） 神田 誠様
開催形式	• オンライン開催
背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>• 九州地域では産学ミートアップ事業を実施しており、①電気電子学科の低学年の学生、②電気電子学科以外の他学部の学生をターゲットに、これから進路や就職先を検討する学生・教員が一堂に会し、座学・工場見学・ランチMTG・ワークショップと、一日のプログラムを通じて半導体産業への理解を深める取組みを実施している。</li><li>• 昨年度に九州地域で2回開催したところ、特に学生・教員の参加者のうち、「半導体産業への印象が良くなった」の回答が約8割に上っている。</li><li>• 中部地域において今後電気電子学科の低学年の学生、電気電子学科以外の他学部の学生へのアプローチ方法の参照になることから、講演を依頼。</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>• 実施までの準備における工夫（参加者募集・会場準備等）</li><li>• 前年度の反省を踏まえた今年度の改善事項</li><li>• 企業・教育機関それぞれの視点での参加メリット</li></ul>
場所	• オンライン開催
参加者	• 22名

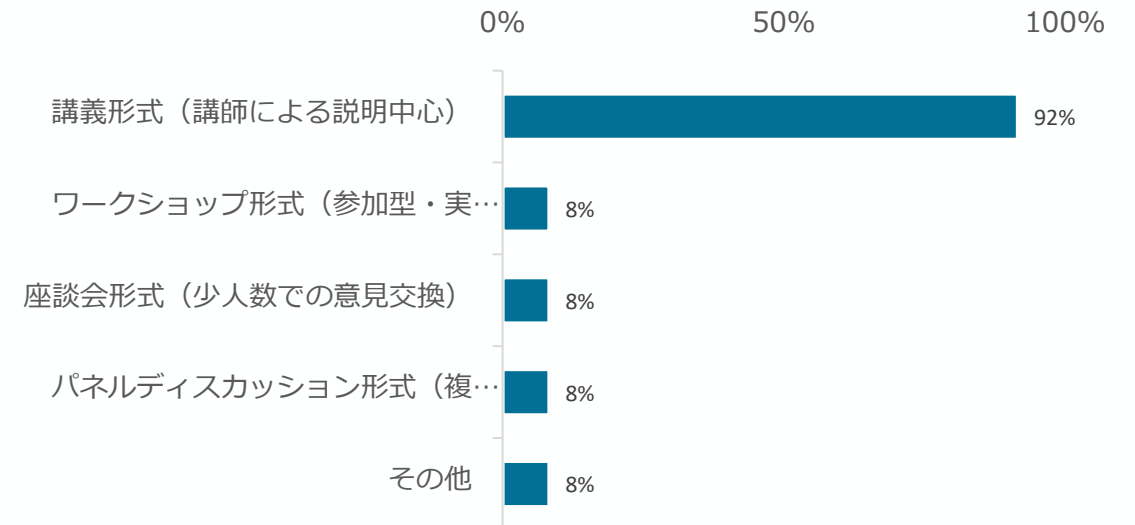
# 参考：令和7年度オンライン勉強会アンケート結果

- 「半導体が切り拓く未来～産学ミートアップ」では非常に満足度の高い結果となった。

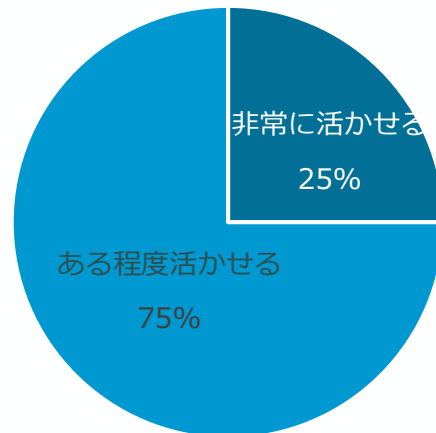
質問1. 本勉強会の満足度



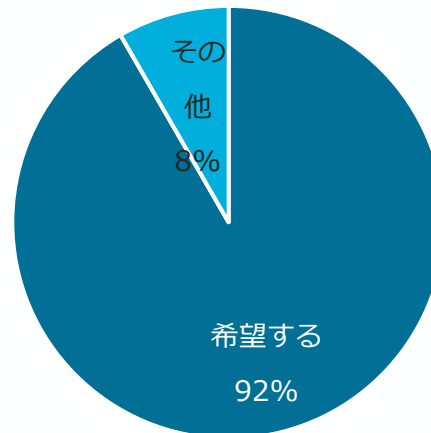
質問5. 実施形式の希望（複数回答式）



質問6. ノウハウの活用度



質問8. 次年度以降の勉強会実施希望



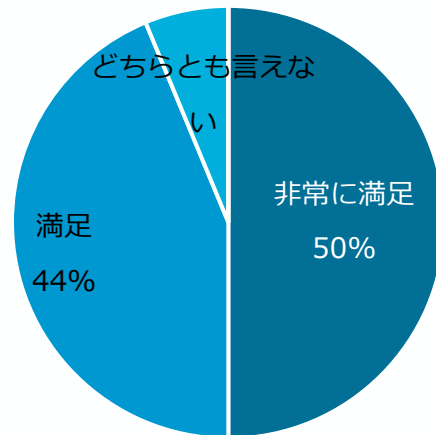
# 勉強会の概要 「若年層へのアプローチ方法」 中国地域×中部地域

開催日時	<ul style="list-style-type: none"><li>2025年11月12日14:00-15:30</li></ul>
登壇	<ul style="list-style-type: none"><li>マイクロンメモリジャパン株式会社</li><li>広島大学</li><li>タワーパートナーズセミコンダクター株式会社</li></ul>
開催形式	<ul style="list-style-type: none"><li>オンライン開催</li></ul>
背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>若年層向けの取組は裾野拡大のために重要な取組であるものの、参加者の記憶に残るようなプログラムの構成に悩んだり、必ずしも採用に直結しないことから社内説明が難しかったりと、様々な課題がある状況</li><li>中国地域の企業との意見交換を通じて、企業が様々な気づきを得られることに期待して実施</li><li>また、広島大学では小学校5年生を対象とした、広域交流型オンライン学習「半導体をつくる工業－なぜわたしたちの市・国は『半導体』推しなのか？－」を実施しており、全国各地の自治体や教育委員会等を巻き込めたポイント等を学ぶため依頼</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>登壇者より、若年層向けに関する取組に関する事例紹介</li><li>上記についての意見交換</li></ul>
場所	<ul style="list-style-type: none"><li>オンライン開催</li></ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"><li>31名</li></ul>

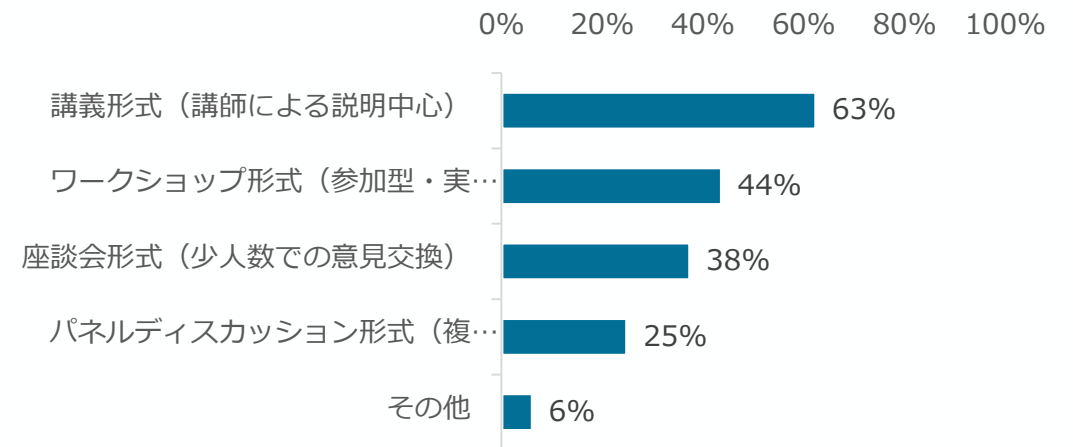
# 参考：令和7年度オンライン勉強会アンケート結果

- 「中国地域×中部地域 意見交換会」では非常に満足度の高い結果となった。

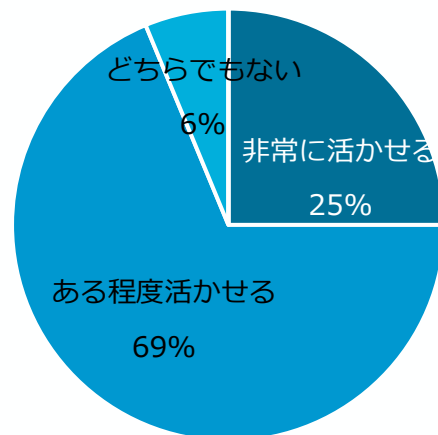
質問1. 本勉強会の満足度



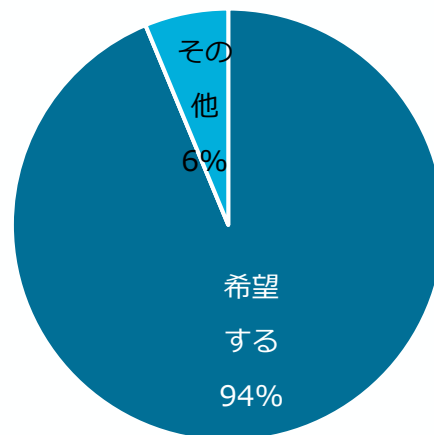
質問5. 実施形式の希望（複数回答式）



質問6. ノウハウの活用度



質問8. 次年度以降の勉強会実施希望



# 普通科高校向け特別講義

- 普通科高校において、「総合的な探究の時間」を利用し、企業17社による特別講義を実施。

## 開催概要

開催日時	令和8年11月4日（火） 14:10-16:00
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知高校2年生 約500人</li> <li>参加企業17社が各教室に配置され、講義を実施（半導体はキオクシアとサンディスクの2社が参加）</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業が取り組んでいる社会課題と取組について知り、社会課題に貢献する重要性を学び、課題解決に臨む態度を養う。</li> <li>自身の進路選択に活かす。</li> </ul>
実施の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習（6時間程度）</li> <li><b>フィールドスタディ（★）</b> 企業訪問等により企業の課題解決に向けた事例を学び、事前学習と実社会を接続</li> <li>事後学習（5時間程度）</li> </ul>



特別講義



生徒発表



グループワーク

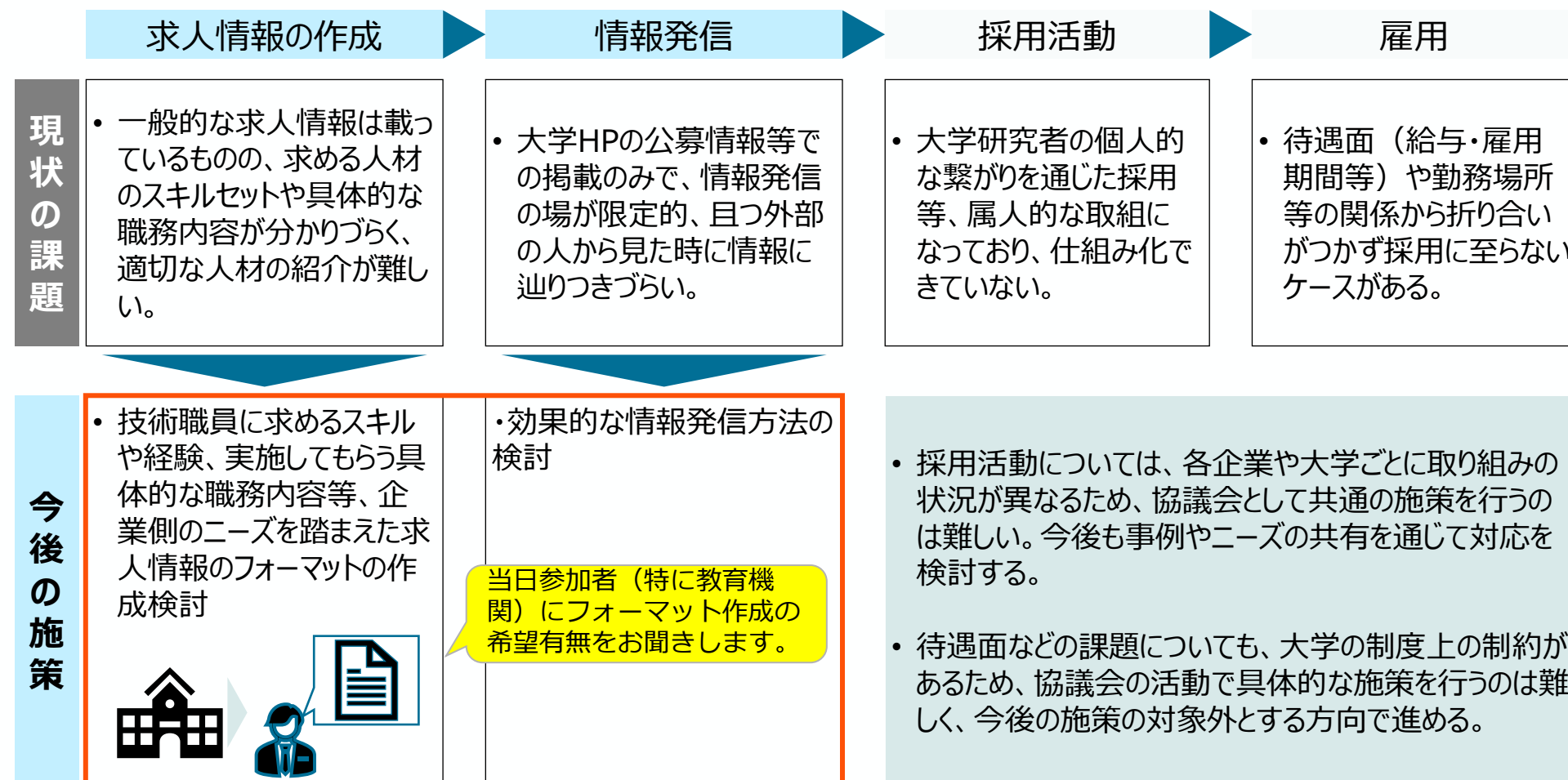
# 産学人材交流事業

- 産業界だけでなく、アカデミアの教育現場においても、技術職員等の教育人材が不足している現状を踏まえ、大学等との人材交流に対する課題・ニーズについて企業側にヒアリングを実施。
- 企業ごとに支援体制や考え方にばらつきがあったものの、待遇面や情報共有の不足が共通課題。情報発信・集約の仕組みを強化し、大学と企業間の情報ギャップを解消することが、効果的な人材交流のために重要。

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"><li>• 大学等の教育現場において、<b>技術職員等、教育・研究開発の現場を支える人材の不足が課題。</b></li><li>• 採用を行えている場合も、大学研究者の個人ネットワークを通じて採用している等、<b>属人的な状態となっており、体系的な仕組み作りができていない。</b></li></ul>
ヒアリングの目的	<ul style="list-style-type: none"><li>• ヒアリングを通じて、企業側がどのようなニーズ・課題を抱えているかを把握する。</li><li>• 今後体系的な仕組み作りを行っていくうえでの論点を整理し、企業と大学の将来的なエコシステムの形成の可能性を探る。</li></ul>
現状	<ul style="list-style-type: none"><li>• 社員の再就職支援については、退職者のセカンドキャリア支援制度や再雇用制度等、企業ごとに異なるが、人材不足の背景もあり、企業側が再雇用として受け入れる側の傾向が強い。</li><li>• 社員の就職支援にあたっては、人材流動性の確保や教育現場のニーズに対する理解はある一方で、社内での承認を得ていくために目的や意義の明確化が必要。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 大学の求人情報は散在し企業に届きにくく、企業側も情報の受け取りや管理に負担が大きい。</li><li>✓ 職種や職務内容の具体性が不足し、適材適所のマッチングが難しい。</li><li>✓ 企業と教育機関における給与・待遇の差</li></ul>

# 産学人材交流事業 今後の方針案





- 大学における技術職員の採用に関して、発信する求人情報の充実や、協議会における情報発信機会の創出によって、企業と大学間の人材交流を目指す。



## **2.令和8年度の取組内容（案）**


# 令和8年度の取組内容（案）

- 来年度は“予算最終年度”のため、新規事業かつ将来自立的に実施可能性の高い事業の実施を優先したい。

	内容	実施時期
 マッチング	令和8年度事業以降は、年度初めに各機関の担当窓口の連絡先確認と共有のみ行い、事務局によるマッチング作業は行わない（各機関に委ねる）。	—
 実績集計	中部地域の半導体人材育成に関する取組の実績集計を行う。	3月
 取組評価	東海地域半導体実践人材育成拠点等の実施プログラム等について、外部評価を実施。 各コンソの取組報告及び企業の採用状況を踏まえて、中部地域の半導体人材育成に関して、質／量／ターゲットの観点から評価を実施。	1月～3月
 意見交換	《想定されるテーマ例》 ✓企業が求める半導体人材像 ✓半導体教育に必要なリソース（教員等）不足の解決 ✓最近の学生の進路選択状況 ✓中部地域の半導体産業の振興に必要な取組      その他交流会など <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">             当日参加者に希望テーマを伺います。           </div>	5月～9月





# 令和8年度の取組内容（案）

- 来年度は“予算最終年度”のため、新規事業かつ将来自立的に実施可能性の高い事業の実施を優先したい。

	内容	実施時期
 若年層等向け	<b>●半導体教育用キット実証事業（参考：P15）</b> 中学生／高校生向けの特別授業において、半導体技術を体験することができるキットを購入し、参画機関において試行的に活用。 授業等において活用後、使用方法や成果に関するフィードバックを貰い、参画機関内において本格導入の可否や運用方法を検討。	6月
	<b>●教材活用実証事業（参考：P16-20）</b> 高校で「探究学習」が広がっており、半導体は親和性の高いテーマと認識されるものの、言語化の難しさから非専門教員には扱うハードルが高い。 また、企業の出前講座においても、半導体の役割等を分かりやすく説明することは課題。 半導体教材を作成している他機関と連携し、企業による出前講座等の実施を支援。	通年
	<b>●小学生向け取組</b> 市教育委員会と連携し、出前授業を実施。	未定

# 令和8年度の取組内容（案）

- 来年度は“予算最終年度”のため、新規事業かつ将来自立的に実施可能性の高い事業の実施を優先したい。

	内容	実施時期
 若年層等向け	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>高校生向け工場見学会（参考：P21）</b>                ・工業高校/SSH向けに出前講座または工場見学会を実施。</li> </ul>	未定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>教員向け工場見学会</b>                ・工業高校の初任者等に対して、半導体工場見学等を実施。</li> </ul>	5月～8月
 他学部向け	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>他学部の学生や教員向け工場見学会</b>                ・他学部の学生や教員に対して、半導体工場見学等を実施。</li> </ul>	未定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>対話型工場見学会</b>                講義・工場見学・グループワークをセットにした対話型工場見学会を全6回実施（学部不問）。</li> </ul>	未定
 ノウハウ共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ノウハウ勉強会（参考：P22～24）</b>                《想定されるテーマ例》                ✓ 他学部向け取組    ✓ 教職員向け取組    など</li> </ul>	未定
 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>教材コンテンツ公開</b>                ・教育機関が講義で用いている教材を専門業者のサポートにより、著作権問題を解消し、公開。</li> </ul>	未定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>産学人材交流事業</b>                ・教育機関側が求人情報を発信する際のフォーマットの作成検討など。</li> </ul>	

当日参加者に希望テーマを伺います。

# 參考資料

# 参考：半導体教育用キットのイメージ

- ブレッドボードと IC 部品の使用により、はんだ付けを行わずに様々な電子回路を実験できる教育用トレーナー。
- 言葉だけでは理解しづらい電子回路の構造や半導体（IC）の動作を直感的かつ楽しく習得可能。



# 参考：教材作成事業

- 詳細内容の検討にあたって、ターゲットや目的、使用が想定される場面等の整理が必要。

## ①ターゲット

×**大学生**：過去に1-2年生を対象にした教育コンテンツやPR資料を作成済み。  
○**高校生**：今後注力すべき層である一方、企業や大学等が活用可能なコンテンツが不足。また、探求学習の進展から、高校が自主的に扱うことも期待。  
×**小中学生**：半導体特化ではなく、理科全般に興味を持つ取組が必要。

## ②目的

• **誰が、どの場面で使うものか整理が必要。**  
1. 企業や教育機関の出前講座で使用  
2. 各コンソのイベント等で配布  
3. 各高校の授業で使用  
• **目的**  
○ **認知拡大**：半導体産業に興味を持ってもらう。  
○ **企業理解**：地域企業の魅力や役割を理解。  
× **技術の理解**：基礎回路・デバイスの理解。

## ③内容（手法）

1. **知識・理解ファースト型**  
半導体を「知ってもらう」ことにより、「半導体とは何か」「なぜ重要か」を説明できる状態。  
  
2. **思考・探究ファースト型**  
業界を「探究させる」ことにより、自ら問いを立て、業界について考察できる状態

## ④形式

• スライド (ppt)  
• 冊子  
• チラシ  
• 動画 (アニメ)  
• 動画 (実写)  
• マンガ

## ⑤運用

1. 協議会にて作成  
• 事務局で著作権を保有し、必要な都度、参画機関において印刷。  
• 県教育委員会等を通じて、高校に一斉配布。  
2. **教育関係企業と連携**  
• 教材を保有している企業とその都度連携し、導入講義（教育関係企業）＋工場見学等（半導体企業）のようなプログラムを広げる。

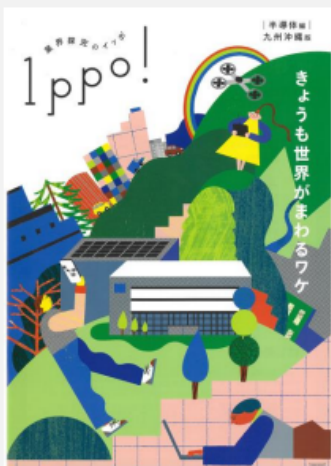
青字…事務局案

# 参考：教育関係企業による半導体業界探求学習教材

今回の業界探究学習教材『業界探究の1PPO』



必修授業「総合的な探究の時間」で半導体業界について学習する教材



高校の必修授業「総合的な探究の時間」で使用される教材です。  
就職を見据えた大学生の段階で初めて企業や業界について知ることが多い中、  
高校生から業界や地域の企業について学習できる探究教材です。業界の知識  
を身に付け、ワークシートを活用しながら掲載企業のことを学び、視野を広げます。

台割 全32ページ

	業界への関心を高め、基礎知識を学ぶ	事例から学ぶ	ワークシート
		企業・学校紹介記事	
表紙	業界の基礎知識紹介 JEITA監修	①業界の未来 ②企業基本企画 ③学校研究紹介	探究学習ワークシート
	九州の業界動向紹介 九州半導体人材育成等コンソーシアム監修		

- 媒体名 : 業界探究の1PPO！半導体編 九州沖縄版  
発行流通 : 2024年7月発行予定（2024年7月～2025年3月の期間に流通）  
判型 : A4変型（210×285mm）  
配布対象 : 九州地域の高校生および福岡県内の中学生（予定）  
※主な利用者は普通科高校1-2年生  
L上記のうち実証実験協力校（5～10校）で  
ご参画企業による授業内での講義を実施予定  
配布方法 : 授業時間内に教員より教材として提供  
本教材を使用した授業を3コマ程度実施想定  
発行部数 : 10,000部  
※高等学校に対しては教員用指導ガイドをご提供予定



# 参考：教育関係企業による半導体業界探求学習教材

具体的な業界探究学習教材の授業内での活用（予定）

マイナビ

業界探究学習教材を使った学習方法イメージ

高校内での座学  
高校内で3時間程度




教員 高校生

必修授業で扱う教科書として「業界探究の1PPO!」を活用。ワークシートを活用しながら、企業掲載ページを読んだりグループワークを行ったりする。



希望高校によるオプション実施

企業担当者による  
高校生への講演会実施



企業紹介、取り組んでいる社会課題に関する講義をいただき、質疑応答の時間を使ってディスカッションを実施。

※対面またはオンラインにて実施予定

locusプログラムを学習する高校生達の様子

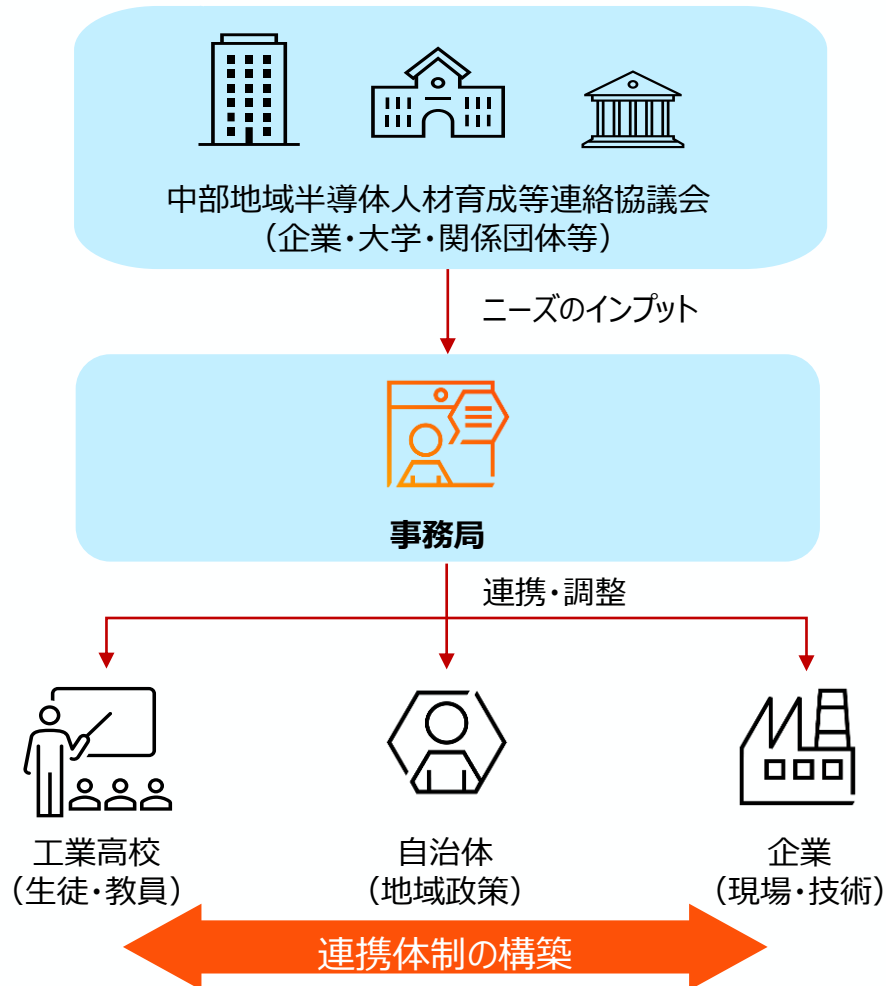


マイナビ高校営業メンバーが、学校授業での導入をサポートいたします

2023年度のlocusの取り組み

# 参考：工業高校との連携スキーム

- 事務局がハブとなり、工業高校、自治体、企業と連携・調整を行う仕組みを構築し、工業高校生や教員向けの研修プログラムなどを通じて人材育成と教育の質向上を図る。



## 参画機関からのニーズの例

- 地域の人材ニーズに即した効果的な人材育成施策の提案
- 最新技術動向を反映した教育教材やカリキュラムの整備

## 事務局での対応事項

- ニーズの整理・可視化
- 関係者の調整・マッチング
- 取り組み全体の設計・進行管理

## 想定している取り組み（重点領域）

- 高校生向け工場見学会
- 新規採用者向け研修プログラム
- 教員向け研修

# **3.中部地域半導体人材育成等連絡協議会の今後の 運営方針**

# (参考) これまでの在り方検討の議論体制

## WGメンバー

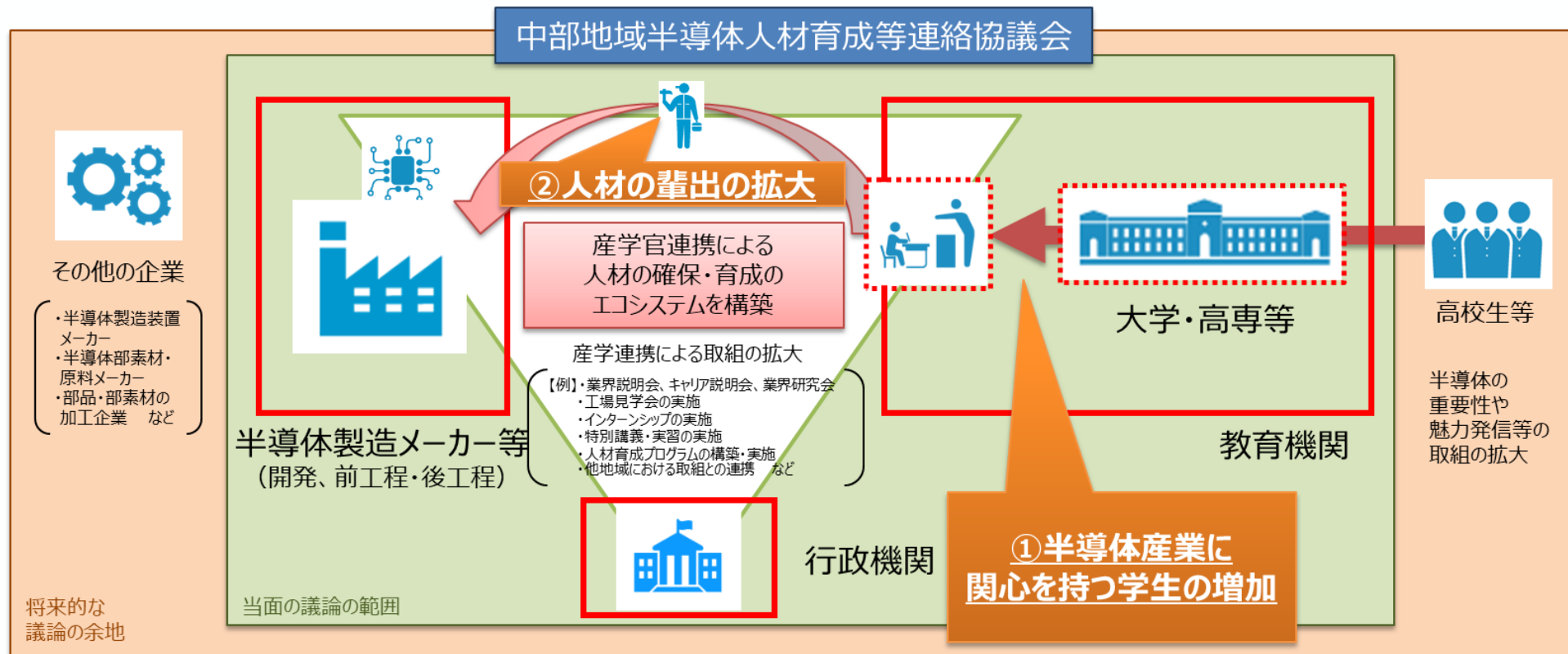
産 (5)		学 (6)		官 (2)
株式会社デンソー	イビデン株式会社	名古屋大学	豊橋技術科学大学	愛知県
キオクシア株式会社	東芝デバイス&ストレージ株式会社	三重大学	金沢工業大学	三重県
タワーパートナーズセミコンダクター株式会社		富山大学	鈴鹿工業高等専門学校	

## 検討事項

今後の進め方 イメージ	第1回WG (10/28)	<b>【活動領域と体制の検討】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海及び北陸コンソとの棲み分けと、協議会が担うべき領域・運営体制の検討</li> <li>・ 参画機関の拡大の可否について検討</li> </ul>
	協議会 (12/8)	<b>【中間報告・活動内容の検討】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回WGの議論を取りまとめた結果を報告</li> <li>・ 今後の具体的な活動内容の検討</li> </ul>
	第2回WG (1/23)	<b>【新体制への移行プロセスの検討】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動内容や今後の運営体制を踏まえ、どのようなプロセスで新体制への移行を図っていくか検討</li> <li>・ 今後の具体的な活動内容の検討 (継続)</li> </ul>
	協議会 (3/3)	<b>【最終報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回WGの議論を取りまとめた結果を報告。</li> <li>・ 最終方針の決定</li> </ul>
	2026年度	<b>新体制への移行期間</b> (必要に応じて、追加議論や会員拡大の場合は拡大先と調整など)

# 「中部地域半導体人材育成等連絡協議会」について（令和5年度～令和8年度）

- 2023年3月、「中部地域半導体人材育成等連絡協議会」を設置。
  - ①半導体産業に関心を持つ学生の増加
  - ②半導体産業への人材輩出の拡大につながる環境の形成
 を目指す。
- 学生への半導体業界の認知度向上や教育の充実化など、1企業・1教育機関だけでは解決が困難な課題に対して、中部地域の半導体分野に関わる企業や教育機関が連携して取り組む。
- 工場見学会、インターンシップ、特別講義や、合同業界説明会、人材育成プログラムの作成等を実施。



# 「中部地域半導体人材育成等連絡協議会」について（令和9年度～）

- 本協議会の設置後、約2年が経過し、内部環境及び外部環境の変化を踏まえて、今後の在り方を議論。
- 本協議会の存続を望む声が多く、令和9年度以降も当面の間、中部経済産業局を事務局として継続を決定。

	令和5年度～令和8年度	令和9年度～
会 員 数	27	27
目 的	①半導体産業に関心を持つ学生の増加 ②半導体産業への人材輩出の拡大につながる環境の形成	①半導体産業に関心を持つ学生の増加 ②半導体産業への人材輩出の拡大につながる環境の形成
役 割	・ 参画機関間のニーズマッチングを行い、産学連携による取組を推進 ・ 業界説明会等イベント開催、教材、パンフレット作成	・ 各コンソーシアムや企業、教育機関、各種団体等との結節点として、各種調整を実施 ・ 各コンソーシアムの協調領域部分を実施

## <連絡協議会の参加機関>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社デンソー</li> <li>・ イビデン株式会社</li> <li>・ サンディスク合同会社</li> <li>・ キオクシア株式会社</li> <li>・ ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社</li> <li>・ タワーパートナーズセミコンダクター株式会社</li> <li>・ 加賀東芝エレクトロニクス株式会社</li> <li>・ 東芝デバイス&amp;ストレージ株式会社</li> </ul>	<b>産 8</b>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名古屋大学</li> <li>・ 豊橋技術科学大学</li> <li>・ 岐阜大学</li> <li>・ 三重大学</li> <li>・ 鳥羽商船高等専門学校</li> <li>・ 金沢大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名古屋工業大学</li> <li>・ 豊田工業大学</li> <li>・ 岐阜工業高等専門学校</li> <li>・ 鈴鹿工業高等専門学校</li> <li>・ 富山大学</li> <li>・ 金沢工業大学</li> </ul>	<b>学 12</b>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県</li> <li>・ 岐阜県</li> <li>・ 三重県</li> <li>・ 富山県</li> <li>・ 石川県</li> <li>・ 文部科学省</li> <li>・ 経済産業省</li> </ul>	<b>官 7</b>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------

# (参考) 中部地域における半導体人材育成の推進体制 (令和9年度~)

- 協議会は、教育機関や各種団体等との結節点としての機能を果たし、各取組主体の協調領域に取り組む。
- 特別講義や工場見学等の具体的な人材育成の取組は各コンソーシアム（青枠）を実施主体とする。



# 令和9年度以降の具体的な活動（案）

- 協調領域に該当する取組の活動概要について、認識合わせをしたい。なお、協議会の開催は最大2回／年を想定。



## 実績集計

### 《概要》

- 中部地域の半導体人材育成に関する取組の実績集計を行う。
- 集計対象は、講義（出前講座含む）、教員等向け研修、工場見学、インターンシップ、業界説明会を想定。

《実施頻度》1回／年



## 取組評価

### 《概要》

- 東海地域半導体実践人材育成拠点（実施プログラムや参加人数等）に関して、外部評価を実施。
- 各コンソの取組報告及び企業の採用状況を踏まえて、中部地域の半導体人材育成に関して、質／量／ターゲットの観点から評価を実施。

《実施頻度》1回／年



## 意見交換

### 《概要》

- 参画機関または事務局より、半導体産業（人材育成含む）に関する意見交換の提案があった場合に、意見交換会を実施。

### 《想定されるテーマ例》

- ✓企業が求める半導体人材像
- ✓最近の学生の進路選択状況
- ✓半導体教育に必要なリソース（教員等）不足の解決
- ✓中部地域の半導体産業の振興に必要な取組 など

《実施頻度》適宜

# 令和9年度以降の具体的な活動（案）

- ・ 協調領域に該当する取組の活動概要について、認識合わせをしたい。なお、協議会の開催は最大2回／年を想定。



## 若年層向け

### 《概要》

- ・ 県教育委員会や半導体人材育成に取り組む団体、企業と調整して、若年層（小／中／高）・向け取組や教職員向け研修等を企画し、各コンソーシアム事務局を通じて参画機関に展開。

《実施頻度》 適宜



## 他学部向け

### 《概要》

- ・ 大学及び高専と調整して、他学部の学生や教職員向け工場見学会等を企画し、各コンソーシアム参画機関に展開。
- ・ 各コンソーシアムが企画する業界説明会等の他学部向け取組を各コンソーシアム事務局を通じて教育機関に展開。

《実施頻度》 適宜



## ノウハウ共有

### 《概要》

- ・ 半導体人材育成に関するノウハウの勉強会に関して、要望があれば実施。
- (例)
- ・ 各コンソーシアム参画機関でオンライン会議や工場見学会等によりノウハウ共有。
  - ・ 必要に応じて他地域のコンソーシアムとの連携によりオンライン会議を実施。

《実施頻度》 適宜

## 4.その他